

# 東金市第4次総合計画 後期基本計画 《概要版》

令和8年3月



東 金 市



東金市マスコット  
キャラクター  
とっすー

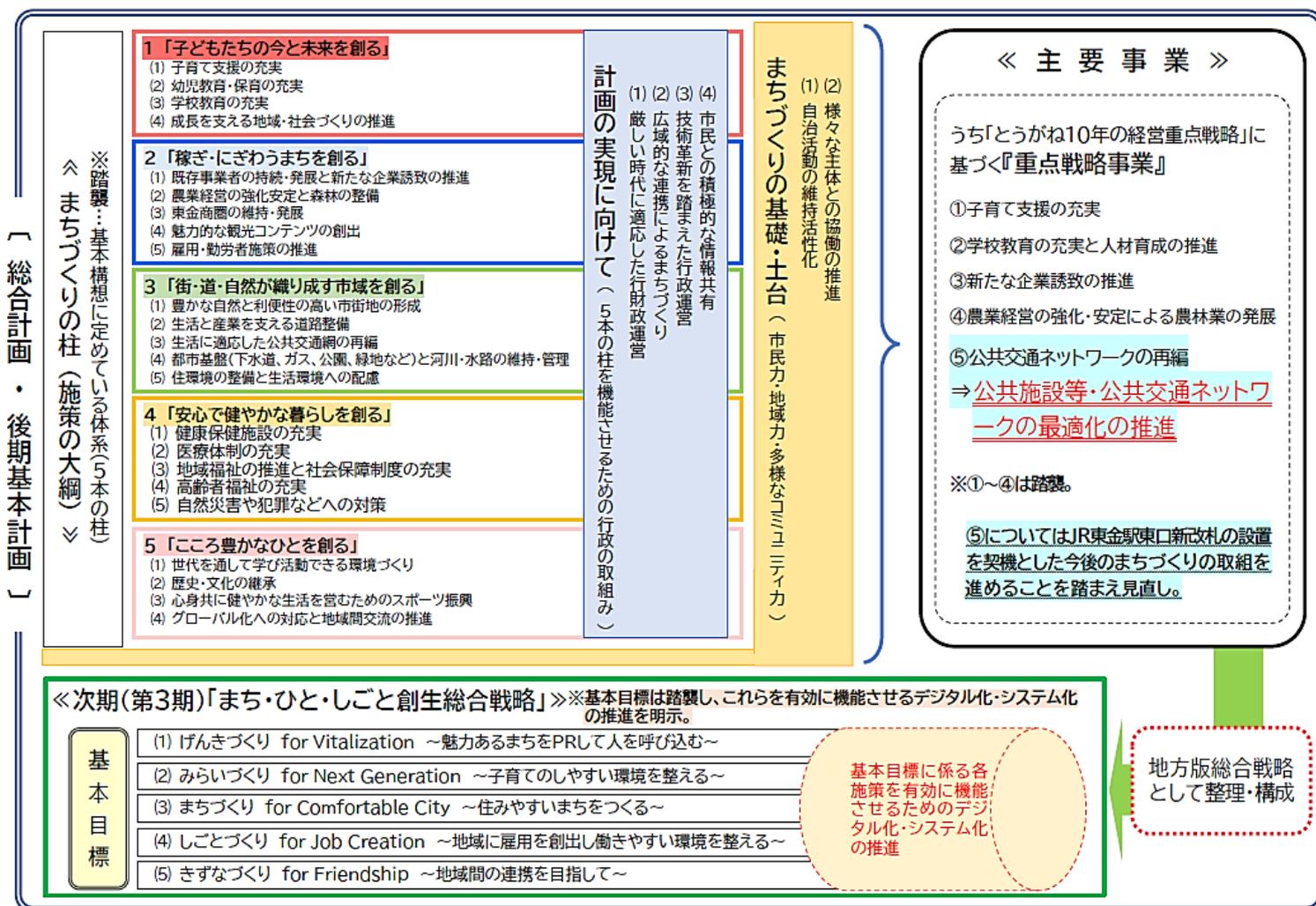
## ■はじめに（後期基本計画の策定とその趣旨）

東金市第4次総合計画は、令和3年度からの10年間を計画期間とし、市の将来像を「豊かな自然と伝統を守り 未来へ続く My City 東金」と定めるとともに、まちづくりの基本理念として、「未来へ向かいポテンシャルを最大限に活かしたまち」「誇りと愛着を持って暮らせるまち」「地域と共に手を携え歩むまち」の3つを掲げています。

計画期間の折り返しに当たり、新たに令和8年度から12年度までの5年間を計画期間とした「後期基本計画」を策定しました。

市の将来像の実現に向け、「とうがね10年の経営重点戦略」に位置付けた重点戦略事業など、具体の施策・主要事業を明確化するとともに、人口減少社会への対応戦略である「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に位置付けた総合戦略事業なども加え、総合的な基本計画としました。

## ■計画等の体系図（全体イメージ図）



## ■目指すべき市の将来像（「豊かな自然と伝統を守り 未来へ続く My City 東金」）

「住みやすさ」と「伝統」を守りつつ、交通の要衝といった様々なポテンシャルを活かしながら、市に関わるすべての人々が愛着を感じる「My City (私のまち)」を目指します。

## ■時代の変化に対応した基本計画の策定（前期基本計画から続く時代の流れ）

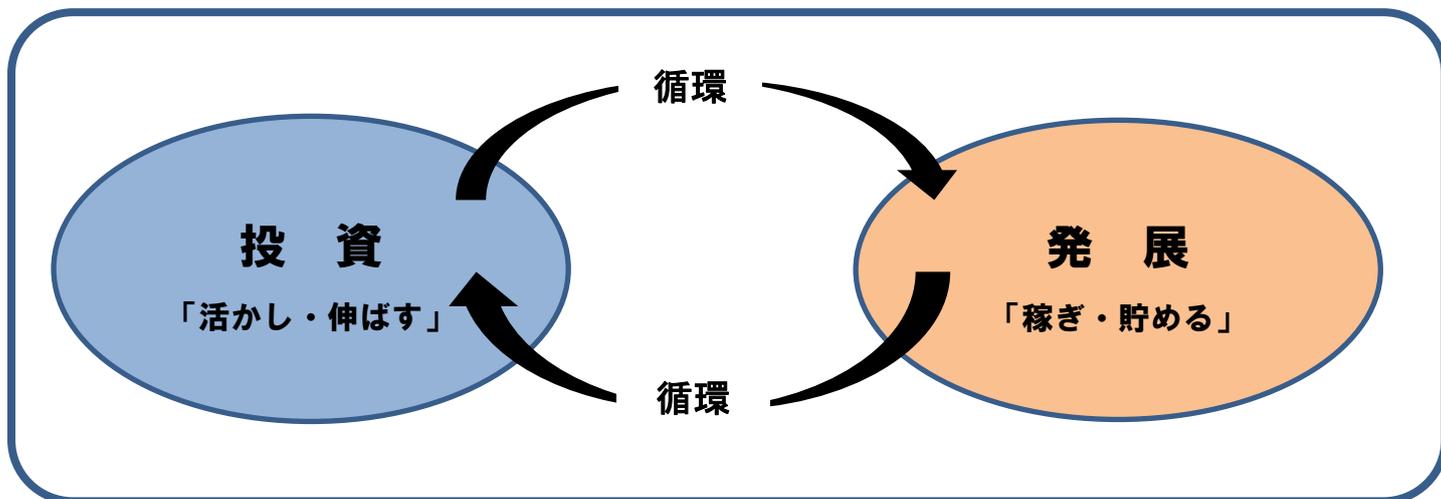
全国的に頻発する大規模な自然災害、各種感染症に加え、デジタル技術の急速な進化と普及、持続可能社会・多文化共生社会などへの関心の高まり、市民生活に直結する物価高騰への対応といった、様々な社会情勢の変化に応じた施策の展開が必要です。

## ■後期基本計画の特色

市の「強み」や「ポテンシャル」を活かしたまちづくりを進めるとともに、「時流」や「ニーズ」に柔軟かつ効率よく対応するためにデジタル技術を活用した効果的な施策展開を図ります。

また、特に注力すべき事業を、「とうがね10年の経営重点戦略」として定めています。

## ■とうがね10年の経営重点戦略（イメージ図）



## ■取組の方向性及び主な重点戦略事業について

### (1) 子育て支援の充実 【投資（歳出）】

核家族化をはじめ、子育て環境は大きく変化しており、子どもを産み、育てやすい環境の整備が必要です。

また、子どもの成長に応じ、様々な子育て支援を充実させることで、次代の社会を担う、子どもの健全な育成を図るとともに、賑わいのある活力に満ちたまちづくりを進めます。

#### ●利用者支援事業（基本型・こども家庭センター型）

「妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援」を実施します。

#### ●幼保再編事業

## (2) 学校教育の充実と人材育成の推進 【投資（歳出）】

学校教育においても社会情勢や時流を的確に捉え、市のDX推進計画に基づき、未来を見据えた取組が必要です。また、学校教育を通じて、高度なデジタル時代だからこそ求められる「人間性」を育むとともに、次代を担う子どもたちが「高い志」を持ち、人生を主体的に切り拓くための学びを確立します。

- 学習サポーター事業
- コンピュータ事業

## (3) 新たな企業誘致の推進 【投資（歳出）・発展（稼ぐ・貯める・活用する）】

首都圏中央連絡自動車道や国道126号、千葉東金道路の結節点となる立地上の優位性を活かし、産業拠点としてのさらなる発展を遂げるため、関係機関との連携による新しい産業用地整備を推進します。また、その効果を高めるための取組みの一環として、道路交通網の整備等を念頭に置き、企業立地の促進、企業を誘致するための補助制度を活用することにより、企業誘致を積極的に進め、産業の振興、雇用の促進等による地域経済の活性化を図ります。

- 企業誘致推進事業
- 産業用地整備事業
- ふるさと納税推進事業

厳しい行財政運営や物価高騰等といった社会情勢の変化に対応していくための財源確保策として、寄附を集めます。また、市内事業者が返礼品を取り扱うことで地域産業の活性化を図ります。

## (4) 農業経営の強化・安定による農林業の発展 【投資（歳出）・発展（稼ぐ・貯める・活用する）】

農地・農村や森林は、食料や生活資材の供給の場に留まらず、自然環境の保全や水源の涵養など多面的な機能も有しており、将来にわたり持続的な取組が必要です。

そのため、農業用施設の整備や地域主体の活動を支援するとともに、地域の実情を踏まえ、農用地の利用集積や経営体の育成支援、道の駅の有効活用により、生産者の経営安定化などを進めます。

- みのりの郷東金発展事業
- 農用地利用集積事業及び多面的機能発揮促進事業

農業経営の規模拡大や農地の利活用による生産基盤と経営基盤の強化を図ります。

## (5) 公共施設等・公共交通ネットワークの最適化の推進 【投資（歳出）・発展（稼ぐ・貯める・活用する）】

市民の目線に立ち、誰もが移動しやすい環境の整備に取り組めます。

また、持続可能なまちづくりのため、交通資源や公共施設等に着目し、JR東金駅東口新改札の設置を契機とした「市役所周辺地域の公共施設等の最適化を含めたまちづくり」の取組みについて、地域の特性や市の財政状況を踏まえた中で進めていきます。

併せて、多様化する生活様式に対応し、誰もが暮らしやすい「わがまち」となるよう、人々のつながりやコミュニティ形成を重視した「集い・交流」できる場所や空間、機会の創出に努めます。

### ●地域公共交通計画推進事業

#### ●乗り継ぎ拠点整備事業

JR東金駅東口改札設置を契機に広域交流による賑わい創出と移動しやすい活力あるまちとするため、東金駅を中心とした多様な交通手段を相互に連携させる乗り継ぎ拠点の整備に向け、事業者などとの調整を図ります。

#### ●公共施設等総合管理計画推進事業

人口減少社会における持続可能なまちづくりに向けた、市内全体の公共施設等の最適化を図ります。併せて、その一環として駅・市役所周辺地域の公共施設等の最適化の取組みを推進します。

## ■おわりに（後期基本計画の基本的方向性）

様々な課題に対処するため、新たな市民サービスの提供が必要であり、そのためには、限りある財源の効率的な配分や市民協働を進めていく行政運営の手法が求められます。

また、各施策を効果的に機能させるための「デジタル化・システム化」について、横断的に取り組んでいくことを明示し、市民や市に関わる人々の利便性の向上を目指し、DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進を計画的に進めます。

併せて、安全安心な市民生活の維持・向上を念頭に、医療をはじめ幅広く福祉施策を充実させるとともに、持続可能なまちづくりを目指し、市民や民間活力を取り入れながら公共施設や公共交通ネットワークの整備や形成を進め、最適化を図ります。

東金市第4次総合計画 後期基本計画 概要版

令和8年3月